

令和6年度第2回部活動の
在り方検討委員会説明資料

資料1



RUMOI

その美しさに息を呑むほどの夕陽と
世界三大波濤のまち

学校部活動改革の取組み

留萌市教育委員会

これまでの取り組み

①旧留萌高校グラウンドを活用した部活動の地域移行の実証研究に関する連携協定の締結

(令和6年5月28日)

○北海道教育委員会、市教育委員会、地元少年野球協会が連携・協力し、旧留萌高校のグラウンドを、市内中学生の野球の活動場所として活用する実証研究を行うことを目的として締結

⇒9月と11月に地元少年野球協会がサポートのもと、両中学校合同による練習を実施(計3回)

②近隣町村との広域連携に向けた打ち合わせの実施

○増毛町(令和6年6月11日)

⇒現段階で部活動を学校から切り離すのは難しいと考えているが、少子化で生徒数の減少が進む中、近隣市町村との連携は必要だと考えている

○小平町(令和6年6月11日)

⇒近隣市町村との連携については、検討協議会で共有しているが具体的な検討にまで至っていない

これまでの取り組み

③種目別打合せの実施

- サッカーボール（令和6年7月19日）
⇒るもいジュニアFCと協議した結果、現段階で指導者の確保が困難
- バスケットボール（令和6年7月31日）
⇒将来的な合同化・クラブ化を見据えて、両中学校による合同練習を実施していく

④視察への対応

- 宗谷教育局等（令和6年7月8日）
⇒宗谷教育局及び宗谷管内市町村からの依頼を受け、留萌市のこれまでの取り組みを説明
- 滝上町（令和6年10月15日）
⇒滝上町からの依頼を受け、留萌市のこれまでの取り組みを説明を説明したほか、意見交換を実施

⑤留萌管内部活動の地域移行に係る情報交換会の実施（令和6年10月25日）

- 部活動の今後の在り方や地域移行の理解促進を図ることを目的として、留萌管内市町村で情報交換会を実施

各種目ごとの活動状況

①バレーボール

スポーツセンターで留萌地区バレーボール協会の指導者を中心とした両中学校合同による練習を実施（平日2日程度）

②陸上

前年度から引き続き、陸上競技協会員の外部指導者による休日の活動を継続していく予定であったが、留萌中学校と調整できていない

③卓球

港南中学校については、卓球協会会員を外部指導者として休日の練習を継続しているが、留萌中学校については引き続き協議中

④ソフトテニス

ソフトテニス協会の指導者を中心に学校顧問のサポート体制のもと、夏期は留萌中学校、冬期はスポーツセンターで週に1回の練習を実施（平日）

各種目ごとの活動状況

⑤サッカー

土日を中心に夏期は船場公園等、冬期はスポーツセンターで、両中学校の合同練習を実施

⑥バスケットボール

- ・ 港南中学校の男子バスケについては、休日に市職員が兼職兼業による外部指導を実施しており、今後、両中学校による合同練習を実施する予定
- ・ 女子バスケについては、港南中の生徒が所属する少年団と留萌中女子バスケ部を統合する予定としていたが頓挫

⑦野球

旧留萌高校グラウンドを活用して、9月と11月にヒーローズのサポートのもと、両中学校合同による休日の練習を実施

⑧吹奏楽

留萌管内吹奏楽祭（10月14日開催）に向けて、両中学校合同による練習を実施（2回）

前回の検討委員会からの意見

①子ども達のスポーツ・文化活動の構築にあたり、持続可能な体制を前提として地域移行を進めていく必要がある。

⇒種目ごとに完全クラブ化の方向性や時期を検討し、ロードマップとして示したうえで事業を進めていく

②地域移行の取り組みを保護者や地域に周知し、理解を得ることが重要

⇒小中学校のPTAの集会等の中で説明会を実施できないか検討する

③将来的に単独では、団体競技のチーム編成が難しくなることを想定し、準備を進めていく必要がある

⇒両中学校の合同部活動の積極的な実施を促していく

前回の検討委員会からの意見

④将来的な少子化を見据え、管内全体による広域連携を早急に進めていく必要がある

⇒留萌教育局との連携のもと、将来を見据えた地域移行としての広域化について、近隣町村と協議を行っていく

⑤少年団等の小学生の活動と中学生の活動の連携を図り、高校へ繋げていくような仕組みづくりが必要

⇒指導体制を含め、どのような連携が可能であるかの協議していく

⑥スキーや剣道など部活にはない種目についても、指導者確保が課題となっているため、民間企業の協力を得るなどの対応が必要

⇒教員や市職員による兼職兼業としての取組みのほか、企業の地域貢献活動（人材バンクの設置）を検討していく